

1 都市づくりの基本理念 (本編第3部 P23~P32)

(1) めざす都市像 【現行構想策定時の区民提案の理念を継承】

「**一步先**を行く **緑 緑 区 あさお**」

⇒「麻生区が持っている優れた特性(田園、ふるさと、自然など)をさらに伸ばすとともに、つくり続ける動きのあるまち」を表現

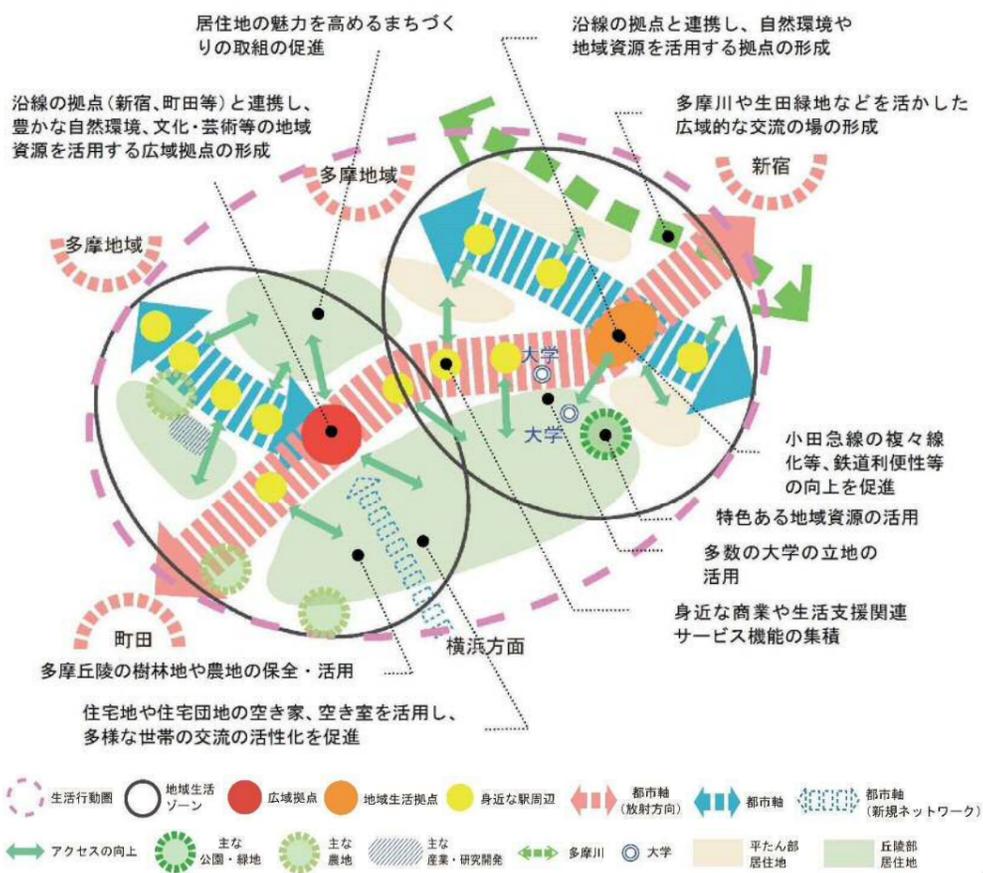
都市づくりの基本方針

- ①地域資源を活かして、さらに質の高いまちを育みます
- ②持続可能なまちをめざします
 - 環境面：緑が保全され、環境への負荷が小さいまちをめざす
 - 経済面：地域が自立できる産業があるまちをめざす
 - 社会面：多世代が暮らせるコミュニティのあるまちをめざす

(2) 全体構想における位置づけ

- ・麻生区、多摩区を「北部エリア」とし、小田急小田原線・多摩線、JR南武線を軸とした鉄道沿線まちづくりを推進
- ・高低差のある地形等の地域特性を考慮しながら駅や駅周辺へのアクセスを向上
- ・多摩川や生田緑地等の市を代表する地域資源を活用し、広域的な交流の場の形成
- ・計画的に整備された住宅地や住宅団地の空き家、空き室を活用し、コミュニティの活性化 / 等

北部エリアのまちづくり概念イメージ図

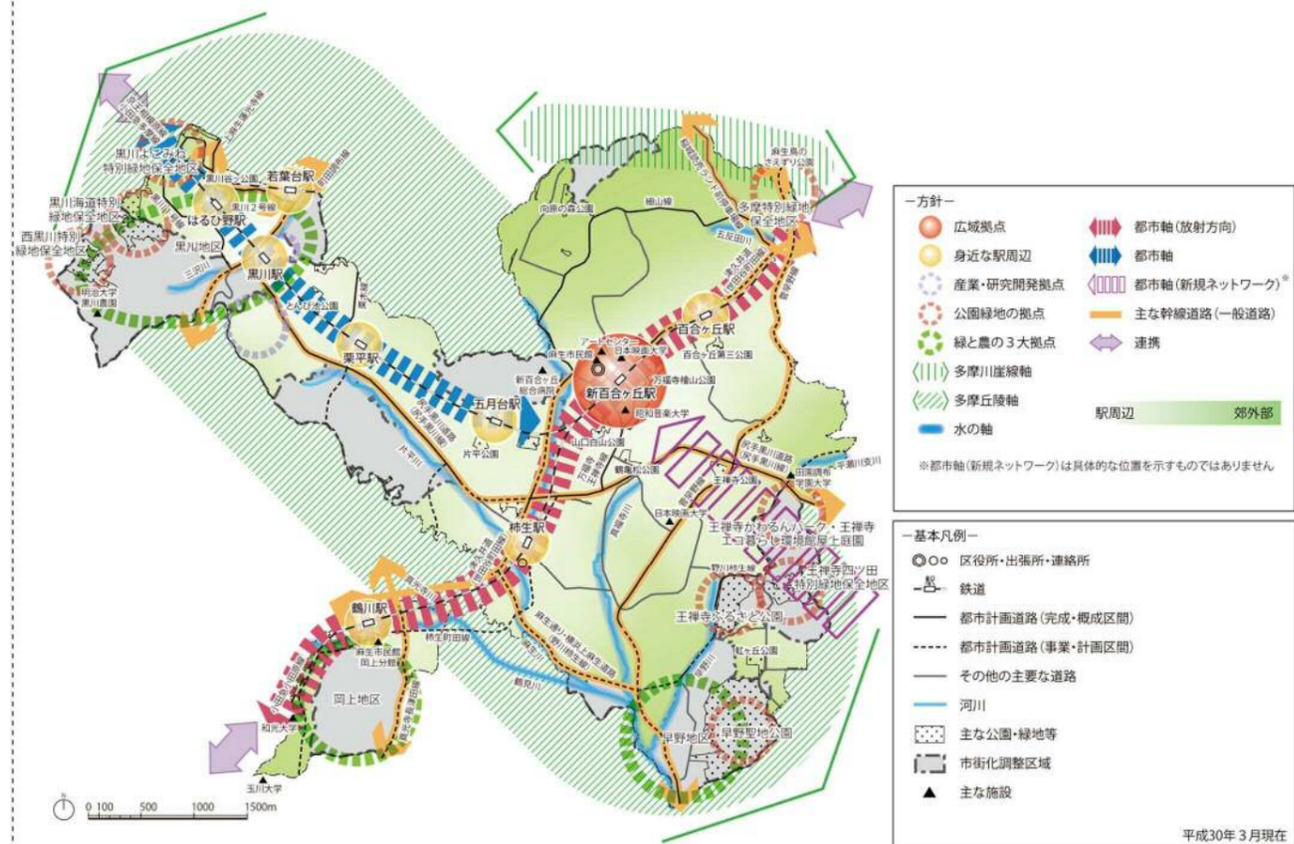


(3) めざす都市構造 【改定した全体構想と同様に「めざす都市構造」を以下の6項目で整理】

※下線部は現行構想からの主な追加・変更点

- ①**広域調和・地域連携型のまち**をめざします
 - ・広域的な視点を踏まえた魅力ある拠点形成と各地域が自立、連携した広域調和・地域連携型の都市構造をめざす。
 - ・鉄道沿線を「都市軸」として位置づけ、鉄道を主軸に、近隣都市や身近な地域が「連携」したまちをめざす。
- ②**魅力にあふれ、個性ある都市拠点の形成**をめざします
 - ・新百合ヶ丘駅周辺地区では、北部エリアの「広域拠点」として、商業・業務・文化機能の集積を促進するとともに、利便性の高い良好な街なか居住の空間を形成するなど、若年層から高齢者まで多様なニーズに応じた住まいの供給を図る。
- ③**生活行動圏の身近な地域が連携した住みやすく暮らしやすいまち**をめざします
 - ・広域拠点以外の鉄道駅周辺では、市民の日常生活を支える身近な生活圏の拠点となる「身近な駅周辺」として、駅の特性や利用者数等に応じ、鉄道を主軸に沿線の拠点地区と都市機能を連携・分担し、生活利便性の向上とともに、地域の歴史や文化等の資源を活かしたまちづくりをめざす。
- ④**広域調和・地域連携のまちを支える交通ネットワークの形成**をめざします
 - ・東京、横浜方面へのアクセス強化、鉄道沿線のまちづくりを支える既存鉄道路線の機能強化や鉄道路線の整備により、都市機能や拠点間連携を強化する交通網の形成をめざす。
- ⑤**多摩丘陵の緑地と多摩川・鶴見川水系を骨格にした、緑と水のネットワーク**を育みます
 - ・黒川、岡上、早野の農業振興地域を「緑と農の3大拠点」として、また、これらをつなぐ樹林地を「多摩丘陵軸」として位置づけ、まとまりのあるみどりの保全をめざす。
- ⑥**コンパクトで効率的なまち**をめざします
 - ・少子高齢化の進展による社会的要請や今後の人口減少を見据えた地域課題に効果的に対応するとともに、地球環境に配慮した都市の形成を推進するため、コンパクトで効率的なまちをめざす。
 - 駅周辺：公共公益施設の集約や多様なニーズに対応した都市機能の誘導、駅へのアクセスの向上 など
 - 郊外部：空き家等の活用により地域コミュニティの活性化を図る場の形成 など

都市構造図

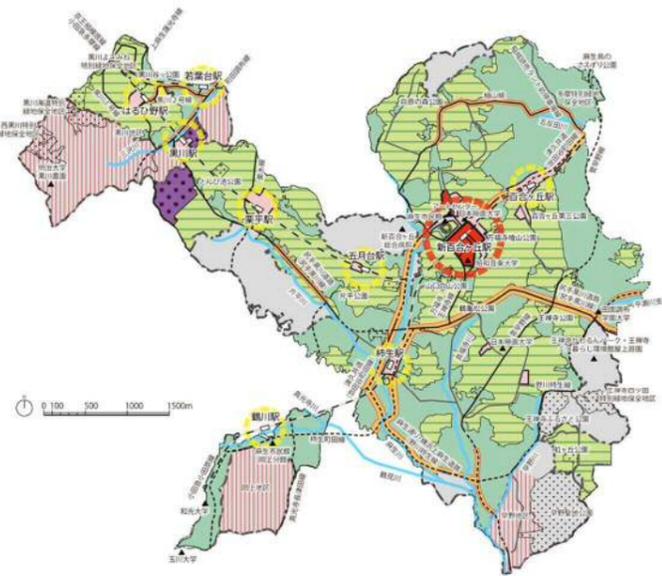


平成30年3月現在

(1) 土地利用（麻生区構想 P34～P47）

- ① **広域拠点としての新百合ヶ丘周辺地区のまちを育みます**
⇒芸術・文化等の地域資源を活かすとともに、横浜市営地下鉄3号線の延伸を踏まえ、駅周辺の回遊性の向上や民間活力を活かした土地利用転換等を誘導・推進し、より広域的で質の高い魅力ある拠点形成をめざす。
- ② **地域の特性を活かした「身近な駅」周辺の利便性向上をめざします**
⇒柿生駅周辺では、市街地再開発事業等により、賑わいや活気、憩いを感じられるまちづくりをめざす。
⇒横浜市営地下鉄3号線の延伸により新たに設置される身近な駅周辺では、地域特性に応じた駅周辺にふさわしいまちづくりをめざす。
- ③ **多様な世代のコミュニティを支える、安全・安心で誰もが暮らしやすい住環境を育みます**
⇒良好な住宅地等の空き家、空き室を利用して多様な住まいや地域交流の場の形成を図る。
- ④ **マイコンシティにおける産業・研究開発機能の集積をめざします**
- ⑤ **都市農地や緑地を保全・活用し、自然環境と調和のとれた住環境を育みます**
- ⑥ **市街地調整区域の里地里山環境を育み、地域の活性化と土地利用の整序をめざします**

土地利用方針図

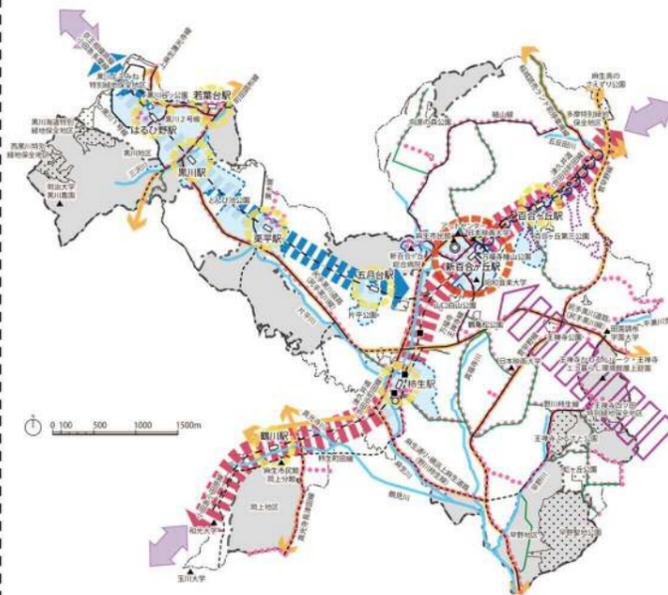


<p>一方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 広域拠点 ○ 身近な駅周辺 ■ 商業集積エリア ■ 地域商業エリア ■ 丘陵部住環境保全エリア ■ 丘陵部住環境向上エリア ■ 新産業誘導エリア ■ 幹線道路沿道エリア ■ 主な公園・緑地等 	<p>一基本凡例</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 区役所・出張所・連絡所 ● 駅 — 都市計画道路(完成・概成区間) — 都市計画道路(事業・計画区間) — その他の主要な道路 — 河川 ■ 市街地調整区域 ■ 農業振興地域 ▲ 主な施設
--	---

(2) 交通体系（麻生区構想 P48～P57）

- ① **便利で使いやすい交通ネットワークの整備をめざします**
⇒横浜方面へのアクセス強化、新百合ヶ丘駅の拠点機能の強化等を図るため、横浜市営地下鉄3号線の延伸に向けた取組を推進し、早期開業をめざす。
⇒横浜市営地下鉄3号線の延伸においては、新百合ヶ丘駅南口までを整備区間とし、嶮山付近、すすき野・虹ヶ丘付近、新百合ヶ丘駅、すすき野・虹ヶ丘付近と新百合ヶ丘駅の間には駅の設置を促進する。
- ② **誰もが安全、安心、快適に利用できる交通環境の整備をめざします**
⇒踏切道改良促進法に基づき改良すべき踏切道として指定された、新百合ヶ丘1号、新百合ヶ丘2号及び柿生1号について地域の実情にあわせた改良計画を検討する。
⇒バリアフリー基本構想・推進構想に基づき、鉄道駅を中心としたバリアフリーのまちづくりを促進する。
- ③ **暮らしを支える身近な交通環境の整備をめざします**
⇒駅などへのアクセス向上は路線バスによる対応を基本とし、路線バスサービスの維持、充実に向けて、バス事業者等と連携した取組を推進する。
⇒高石地区において運行されているコミュニティ交通「山ゆり号」の運行維持を支援する。

交通体系方針図

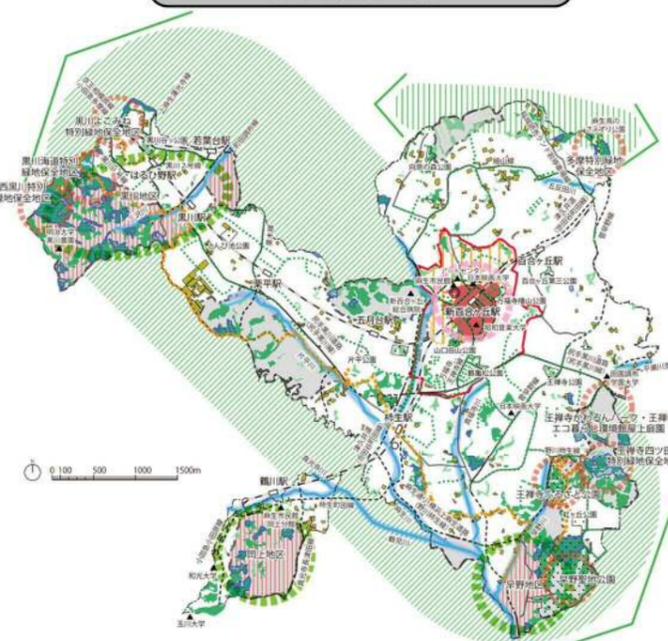


<p>一方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 広域拠点 ○ 身近な駅周辺 ■ 都市軸(放射方向) ■ 都市軸 ■ 連携 ■ (バリアフリー) ■ 重点整備地区 ■ バリアフリー推進地区 	<p>一基本凡例</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 区役所・出張所・連絡所 ● 駅 — 都市計画道路(完成・概成区間) — 都市計画道路(事業・計画区間) — その他の主要な道路 — 河川 ■ 市街地調整区域 ■ 主な施設 ■ 主な公園・緑地等 ■ 路線バスネットワーク ■ コミュニティ交通線
---	--

(3) 都市環境（麻生区構想 P58～P69）

- ① **環境に優しいまちを育みます**
- ② **麻生区らしい緑と水の骨格の形成をめざします**
⇒観光交流型農業に向けて、グリーンツーリズムを取り入れた地域農業の活性化を進める。
- ③ **身近に緑を感じることでできるまちをめざします**
⇒農地は、新鮮な農産物の供給地として、さらに、良好な景観の形成や水源の涵養などの緑地としての機能など、多面的な機能を持っていることから、生産緑地地区への指定を促進し、一層の保全に努める。
⇒生産緑地地区の指定から30年を迎える農地のうち、その後も保全の必要がある農地は、農家の営農意向等を基に特定生産緑地に指定し、その後も指定期限を延長するなど、継続的な保全に努める。
- ④ **身近に水を感じることでできるまちをめざします**
- ⑤ **豊富な自然環境と文化芸術をいかした麻生区らしい景観の形成をめざします**
⇒芸術関連のイベントや農業体験をはじめとした麻生区の観光資源をPRするなど、区の魅力を発信することにより、区のイメージアップや地域の活性化を促進する。

都市環境方針図

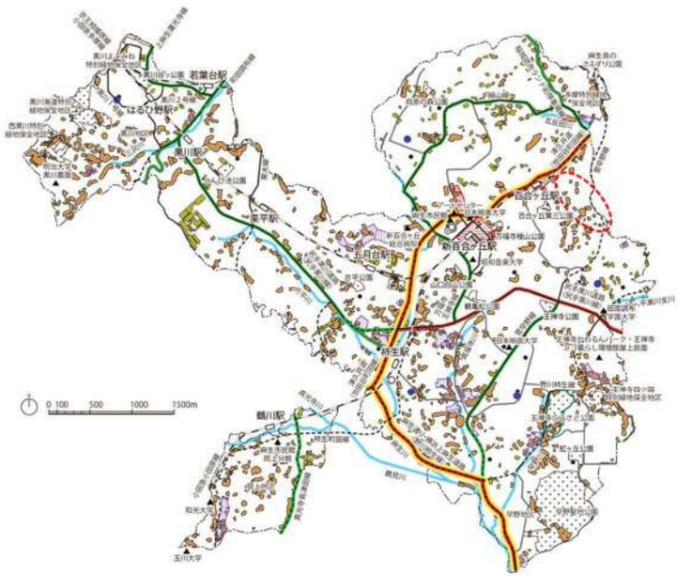


<p>一方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 都市景観の形成 ■ 緑化推進重点地区 ■ (みどり軸) ■ 多摩川屋敷軸 ■ 多摩丘陵軸 ■ 水の軸 ■ (みどり拠点) ■ 公園緑地の拠点 ■ 緑と水の3大拠点 ■ 優先的に保全を図るべき緑地 ■ 生産緑地 ■ 保全対象の緑地 	<p>一基本凡例</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 区役所・出張所・連絡所 ● 駅 — 都市計画道路(完成・概成区間) — 都市計画道路(事業・計画区間) — その他の主要な道路 — 街路樹 — 遊歩道・散策路 — 河川 ■ 景観計画特定地区 ■ 都市景観形成地区 ■ 農業振興地域 ■ 生産緑地 ■ 特別緑地保全地区
--	--

(4) 都市防災（麻生区構想 P70～P80）

- ① **自然災害による被害を軽減するまちをめざします**
⇒市内の崖崩れの約半数が麻生区内で発生していることから、神奈川県による急傾斜地崩壊危険区域や土砂災害特別警戒区域の指定等に、連携して取り組む。
- ② **災害時における都市機能の維持と質の高い復興を可能にするまちをめざします**
⇒柔軟な復興対策が可能となるよう発災前の復興準備を行い、都市復興の迅速化をめざすとともに、都市復興のプロセス等を市民と共有し、予防と復興への機運醸成や復興準備のさらなる質的向上を図る。
- ③ **安全に避難できるまちをめざします**
⇒土砂災害警戒区域を対象とした避難勧告が発令される場合もあるため、ハザードマップ等により、情報提供に努める。
⇒区の縁辺部の住民は市内より市外の避難場所の方が近く、避難しやすいことがあるため、町田市や稲城市等の隣接都市との連携を強化し、避難所の相互利用等の拡充やその周知に努める。
- ④ **自助・共助により被害を軽減するまちをめざします**
⇒火災延焼等のリスクがある百合ヶ丘駅周辺の一部地域では、地域住民との協働による防災まちづくりを推進し、地域防災力の向上をめざす。

都市防災方針図



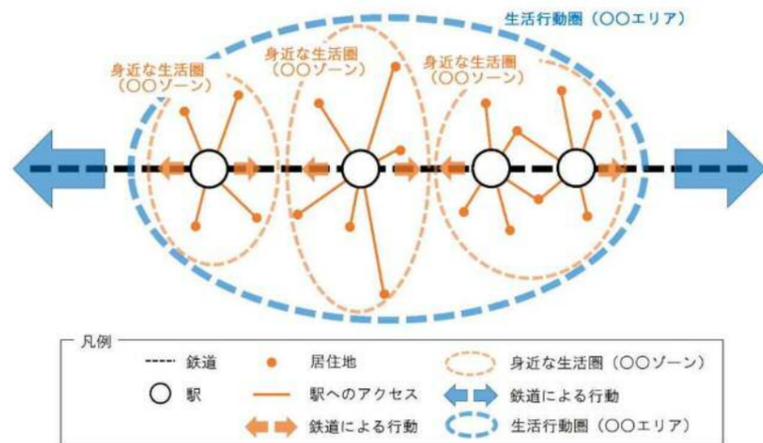
<p>一方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 緊急交通路 ■ 第1次緊急輸送道路 ■ 第2次緊急輸送道路 ■ 協働による防災まちづくりの推進地区 	<p>一基本凡例</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 地域防災拠点(中学校) ● 避難所 ● 消防署 ○ 区役所・出張所・連絡所 ● 駅 — 都市計画道路(完成・概成区間) — 都市計画道路(事業・計画区間) — その他の主要な道路 ■ 河川 ■ 防火地域 ■ 急傾斜地崩壊危険区域 ■ 土砂災害警戒区域 ■ 広域避難場所 ■ 生産緑地 ■ 主な公園・緑地等 ▲ 主な施設
---	---

(1) 概要

(2) 各ゾーンのまちづくりの概要

①考え方

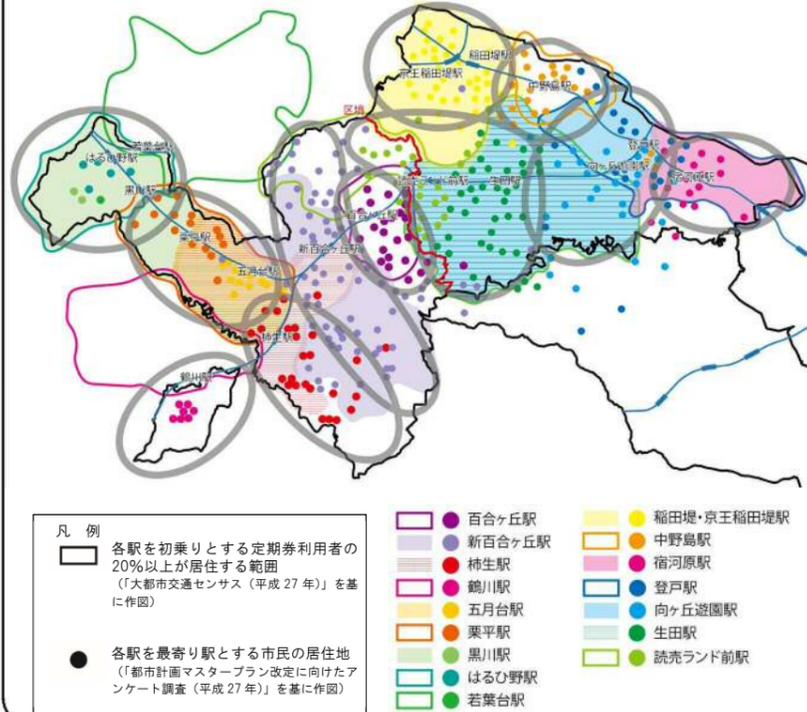
- 市民の日常的な生活圏(身近な生活圏)は、鉄道駅と各々の居住地を中心とした範囲で展開しています。
- そこで、区別構想においては、全体構想に位置付けた生活行動圏(北部エリア)を、身近な生活圏(ゾーン)に細分化し、ゾーン毎にまちの特徴や主なまちづくりの方針を示すことで、市民とまちづくりの方向性をより共有しやすくし、身近なまちづくりを推進します。



②身近な生活圏の範囲(ゾーン)

通勤・通学や日常活動における鉄道駅の利用圏等を踏まえ、北部エリアを駅の利用圏の範囲に分け、11個のゾーンを設定

【駅を中心とした身近な生活圏の範囲】



黒川・はるひ野・若葉台駅ゾーン

＜ゾーン内の主なまちづくりの方針＞

方針図



- 黒川駅周辺では、賑わいや交流機能の導入に向け、段階的な整備を検討し、地域の特性に応じた施設の導入などを検討し地域資源を活かしたまちづくりを推進します。
- はるひ野駅周辺では、住宅地の後背に広がる緑地や農地等の地域資源を活かし、さらなる魅力向上や地域のブランド力向上をめざす地域住民の発意による主体的なまちづくり活動を支援します。 など

五月台・栗平駅ゾーン

＜ゾーン内の主なまちづくりの方針＞

方針図



- 五月台駅周辺では、駅前に空き店舗や低未利用地があることから、空き店舗の活用や地域特性に応じた土地利用への転換など駅前空間にふさわしいまちづくりを検討します。
- 栗平駅周辺では、麻生区内にある小田急多摩線の駅の中で最も利用者が多く、平尾地区(稲城市)からの利用もみられるため、駅利用者の特性等に応じた駅前空間の整備や稲城市との連携等について検討します。 など

鶴川駅ゾーン

＜ゾーン内の主なまちづくりの方針＞

方針図



- 岡上地区の最寄り駅となる鶴川駅周辺は、町田市において市北東部一帯の拠点として副次核に位置付けられ、土地区画整理事業等が進められていることから、町田市とも連携し、生活利便性の向上等をめざします。
- 岡上地区の農業振興地域では、都市農業として高い生産性が確保できる農地の保全に努めるとともに、農業生産の場として、また、農業者や市民と協働した観光交流型農業に向けて、グリーンツーリズムを取り入れた地域農業の活性化を進めます。 など

新百合ヶ丘駅ゾーン

＜ゾーン内の主なまちづくりの方針＞

方針図

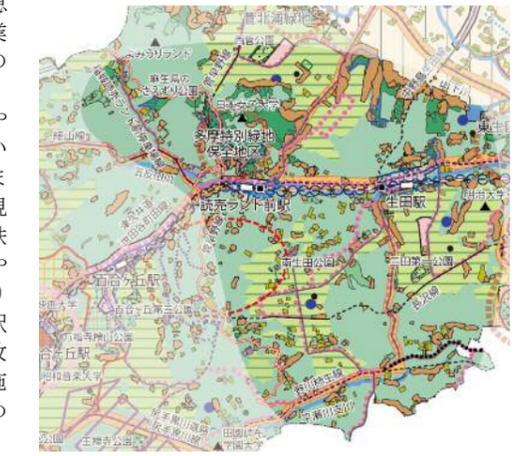


- 新百合ヶ丘駅周辺地区では、充実した都市機能や快適な住環境、芸術・文化等の地域資源を活かすとともに、横浜市営地下鉄3号線の延伸を踏まえた新百合ヶ丘駅の交通結節機能の強化や駅周辺の回遊性の向上、民間活力を活かした土地利用転換や大規模施設の更新を適切に誘導・推進し、麻生区をはじめ、北部エリアの活性化に資する、より広域的で質の高い魅力ある拠点の形成をめざします。 など

読売ランド前・生田駅ゾーン

＜ゾーン内の主なまちづくりの方針＞

方針図



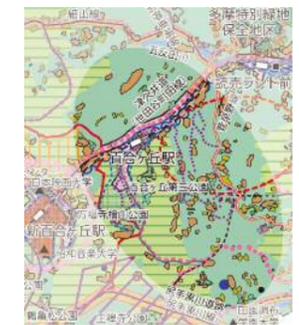
- 生田駅、読売ランド前駅周辺では、長期的には小田急線の複々線化事業や世田谷町田線の拡幅にあわせて、駅前空間の改善や駅前にふさわしい土地利用を図ります。それらが実現するまでの間は鉄道事業者の取組や住民のまちづくり活動を支援し、駅前の道路空間の改善や、交通安全施設の改良等に努めます。 など

※多摩区にある駅のゾーンですが、細山・多摩美地区の利用圏であるため掲載しています。

百合ヶ丘駅ゾーン

＜ゾーン内の主なまちづくりの方針＞

方針図

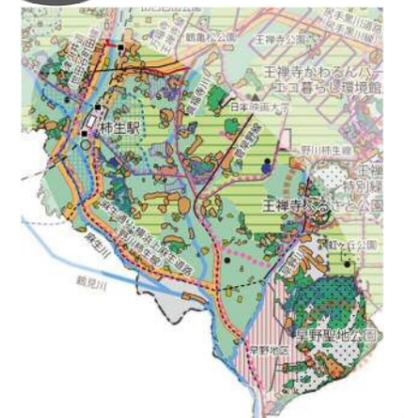


- 百合ヶ丘駅周辺では、広域拠点である新百合ヶ丘駅周辺地区との連携を図るとともに、地形的特徴や既存商店街の集積を活かした賑わいを生み出す段階的なまちづくりを進めます。また、商業振興施策との連携による街なみ景観の向上をめざして、地域の活性化に向けた住民や商店街組織の発意による主体的なまちづくり活動を支援します。 など

柿生駅ゾーン

＜ゾーン内の主なまちづくりの方針＞

方針図



- 柿生駅周辺では、広域拠点である新百合ヶ丘駅周辺地区との連携を図るとともに、市街地再開発事業等により、土地の高度利用を図り、駅を中心とした賑わい・生活利便機能、交流機能の整備、交通結節機能の強化に向けた駅前広場の整備等を誘導・推進し、駅周辺を利用する様々な人の暮らしを支え、賑わいや活気、憩いを感じられるまちづくりをめざします。 など

